

平和を祈り、文化を繋ぐ。踊れ、広島夏の

ひろしま盆ダンス

Hiroshima Bon Dance

今年も
2日間
開催

入場無料

日時 2019年8月10日(土)・11日(日)・祝 会場 旧広島市民球場跡地
各日16:00~21:30 ※雨天などで2日間開催できなかった場合は、12日開催 広島市中区基町5-25

平和への願い 国を越え共有

広島が原爆犠牲者を悼み恒久平和を誓う8月、体験型国際イベント「ひろしま盆ダンス2019」が10、11の両日、旧広島市民球場跡地(中区基町)で開かれる。原爆投下の翌1946年、廃墟が続く基町で開かれた「戦災供養盆踊り大会」が現代版として昨年8月、72年ぶりに復活した。国内外からの旅行者を含む約1万5千人による踊りの輪が広がった。盆踊りは、海外では「Bon Dance」の呼び名で親しまれている。「盆ダンス」は世代や国籍を越えて集う場でもある。

盆踊りと広島

「戦災供養盆踊り大会」が初めて開かれたのは、広島壊滅翌年の1946年8月7日。原爆でその前年未までに約13~15万人が亡くなったといわれる。想像を絶する熱線や爆風、放射線により市内デルタは壊滅した。疎開先にいた戦地や外地から戻ったりした市民も生き抜くのが精いっぱいだった。当時の状況を、「多くの人が住む家もなく、着る服もなく、飢餓と原爆による傷病に苦しめられ、物心ともに悲惨この上ない状況」と、「被爆50周年広島市原爆被害者援護行政史(発行:広島市原爆被害対策部)」は記す。



護国神社跡で初めて開かれた「戦災供養盆踊り大会」(1946年8月8日 中国新聞朝刊)。復興に向け、市民の熱意がうかがえる。

そんな状況の中、広島市町会連盟は46年8月5日から3日間、「平和復興市民大会」を廃墟の基町で開き、復興に力を合わせ、平和文化国家の建設を訴えた。婦人会や文化団体などは、音楽会や映画上映などを手掛けた。戦災供養盆踊り大会は、平和復興市民大会の関連行事として中国新聞社が開催を呼び掛けた。会場は、爆心地近くの基町に鳥居だけが立つ護国神社跡。仁保町(現南区)や吉田町(安芸高田市)の青年団など8団体が出演した。翌日の8月8日付中国新聞朝刊は「絢爛(けんらん)・郷土の芸術復活」の見出しを付け、「水都の爆心地に平和広島の賛歌は打ち出す」と報じた。掲載写真には、廃墟に組まれたやぐらの周りで老若男女が踊る姿が見える。観衆は1万人を超え、復興へと立ち上がるうとする熱気が感じられる。



袋町小のグラウンドで、多くの観客が集まった盆踊り大会(1948年8月10日中国新聞朝刊)

翌47年は、第1回平和祭(→現平和記念式典)の関連行事として、新天地広場で開かれた。やがて、市民が土地区画整理にも応じた復興事業が進むと、市内各地で盆踊りが再び催されるようになった。都市化や世代交代に伴い、原爆犠牲者のみならず先祖をしのび、家族や友人らと笑顔で一夜を過ごす場となる。119万都市の中心街で72年ぶりに復活した昨年、老若男女が踊りの輪をつくり、日本文化の体験ブースや海外への移民の歴史をたどる展示があった。市民同士の国際交流も広がった。外国人旅行者からは「日本の伝統も肌で感じられて最高の思い出になった」との声も寄せられた。平和への願いを世代や国籍を越えて誓い合うのが盆ダンスである。

移民の歴史

海外で「Bon Dance」として親しまれている盆踊りは、明治の始まりと共に海を渡った広島移民の歴史と密接に関わる。ハワイや北米、南米大陸で続く日系人コミュニティで受け継がれてきた。

日本からの移民は、サトウキビ畑の契約労働者として渡ったハワイに始まり、北米、中南米、オセアニア太平洋地域へと広がっていく。JICA横浜海外移住資料館によると、広島県は全国で最も多い約11万人(1885~94年、99~1972年の統計)を送り出した。

なぜ、広島からは移民が多かったのか。瀬戸内沿岸や島しょ部、山間部は耕作面積が狭く、明治以前から県外へ出稼ぎする人たちがいた。近代明治に入り、宇品港の建設工事が進むと、漁場を追われた漁民も少なくなかった。ハワイ移民に渡った広島の人たちは「真面目によく働く」との評判を得た。そして兄弟や妻を呼び寄せ、子どもが生まれると家族定住が広がっていった。

先人たちは日本の文化・習慣も携えた。厳しい暮らしの中でも、ハワイ、米本土やカナダの太平洋沿岸部で仏教会をつくり、異郷で志半ばはなくなった仲間も弔う。夏になると、盆踊りに集い、故郷に思いを寄せた。しかし、太平洋戦争が起ると、子弟への日本語教育も禁じられた。

盆踊りの文化は第2次大戦後、形を変えてよみがえる。日系2世、3世が社会に進出するに連れ、同じ「コミュニティ」の住民らと一緒に踊り楽しむようになった。

ハワイではフラダンスの振り付けや島々をテーマにした曲を盛り込んだ。日本移民の心の支えだったものが、「Bon Dance」として定着し、現在も、6月から9月初旬までハワイ各地で開かれている。ホノルル広島県人会のウエイン・ミヤオ会長(70)は



ハワイに根付いた「Bon Dance」(1985年) 所蔵:田原一久 提供:広島市市民局文化スポーツ部文化振興課

「Bon Danceは、先祖に敬意を払って踊り、亡くなった家族や友人を思い出す大切な場だ。同時に文化的なイベントになっている」と話す。

広島からは、1899年にさかのぼるヘル、1908年に始まるブラジルへの移民も盛んだった。海外最大の日系社会があるブラジルでは、「ボン・ドリ」として、日系寺院にちようちんを掲げ、やぐらを囲んで踊る恒例行事となっている。

日本は高度経済成長期に入ると、海外への大規模な移民は姿を消していった。それでも移住先との交流は、姉妹都市提携を通じて絆が続く。広島市は今年、ホノルル市と姉妹都市提携60周年を迎えた。ヘルへの移民が始まって120周年の節目でもある。今回の盆ダンスでは、これらを記念して、さらに国際交流の場を設け、移民の歴史や海外での盆踊りも紹介する。被爆地ヒロシマで開かれる盆ダンスは、広島歩みを感じ取り、世界各地とのつながりを感じ取る夏祭りでもある。



ハワイのサトウキビ農場で働く労働者(1885~1900年頃) 資料:大槻幸之助コレクション 所蔵:JICA横浜海外移住資料館

主催/ひろしま盆ダンス実行委員会(広島市、広島市教育委員会、広島市文化財団広島市青少年センター、中国新聞社) 後援/広島県、広島県教育委員会、広島商工会議所、広島青年会議所、広島日米協会、広島ハワイアン協会、広島ペルー協会、広島県観光連盟、JICA 中国、広島観光コンベンションビューロー、紙屋町・基町にぎわいづくり協議会、広島市中央部商店街振興組合連合会、広島県民謡協会、武田民謡学院、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz(順不同)

https://hiroshima-bon-dance.jp ひろしま盆ダンス 検索 [お問い合わせ] 中国新聞社地域ビジネス局 〒730-8677 広島市中区土橋町7-1 TEL.082-236-2211(平日9:30~17:30)